

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年9月14日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071801213
法人名	社会福祉法人 光綾会
事業所名	グループホーム 陽楽
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市庄司1020番地1 (電話) 0948-25-7200
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成19年8月28日

## 【情報提供票より】(平成 19年 7月 25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 1.4人

### (2) 建物概要

建物形態	併設/ <del>単独</del>	新築/ <del>改築</del>
建物構造	木造	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~37,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要 (平成 19年 7月 25日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低 72 歳	最高 91 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	筑豊病院、潁田病院、嶺齒科診療所
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは直ぐ近くに笠置山を望むやや高台に在り、民家に囲まれた静かな環境に位置している。大きな邸宅を増改築したバリアフリーの建物である。居室やリビングはゆとりある広さであり、リビングから広いウッドデッキが続き、眺望がよく、癒される。個別の洗面台が設置され、トイレは車いすがゆったりと回転できたり、トイレも数箇所設置され、使い勝手が良い。職員は入居者に優しく家族同様に接し、入居者から生活の知恵を学んだりして、共に支えあう関係が築かれている。計画的な機能訓練や外出支援等、自立に向けての支援を行い、食事の時間や入浴等は強いることなく一人ひとりの生活習慣を大切に支援しており、入居者はゆったりと落ち着いた表情で自由に過ごされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の主な改善課題については地域密着型サービスとしての理念をつくっている。その他の改善課題についても改善がなされている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員参加の学習会において評価の目的や意義、評価内容を理解し、自己評価に取り組む中で気づきや改善策を話し合い、サービスの向上に取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、利用者、家族、町内会長、地域包括支援センター職員、施設長、職員が参加している。利用者の暮らしぶりや提供しているサービス等を報告し、意見を聴いたり、討議したことを学習会等で十分に検討し、サービスの向上に努めている。毎月第3火曜日の10時から12時まで市の介護相談員2名に来ていただき、利用者や職員の相談に対応してもらっている。また職員が介護保険課に出向き相談することもある。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族の訪問時や毎月発行している「ひまわり」便り、さらに2ヶ月1回家族会の開催の機会に利用者の暮らしぶりや職員の異動を報告している。金銭管理については出納のチェックと押印をして確認してもらっている。玄関に苦情・意見箱を設置しているが、苦情等が入ることはない。家族の訪問は月に1回以上はあり、職員に気軽に言える雰囲気できており、家族から聞いたことは必ず学習会で検討し、運営に反映させている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の運動会や隣接している知的障害者施設の学園祭に招待され参加したり、子供会の廃品回収の活動に参加するなど地域に密着した交流に努めている。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対して、住みなれた地域で家庭的な環境のもと・・・』と、事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員参加の学習会や毎朝のミーティングにおいて必ず理念を振り返っており、また、職員は自分の言葉で理念を語る事ができ、常に理念を意識しながら実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や隣接している知的障害者施設の学園祭に招待され参加したり、子供会の廃品回収の活動に参加するなど地域に密着した交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員参加の学習会において評価の目的や意義、評価内容を理解し、自己評価に取り組む中で気づきや改善策を話し合い、サービスの向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、利用者、家族、町内会長、地域包括支援センター職員、施設長、職員が参加している。利用者の暮らしぶりやサービス等を報告し、意見を聴いたり、討議したことを学習会等で十分に検討し、サービスの向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月第2火曜日の10時から12時まで市の介護相談員2名に来ていただき、利用者や職員の相談に対応してもらっている。また職員が介護保険課に出向き相談することもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	昨年度1名成年後見制度を利用していたが、今はいない。職員は研修への参加や学習会で勉強を重ね、制度や活用についての理解を深めている。利用者や家族には契約時に説明をしているが、ホーム便りや家族会でも折にふれて話している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や毎月発行している「ひまわり」便り、さらに2ヶ月1回家族会の開催の機会に利用者の暮らしぶりや職員の異動を報告している。金銭管理については出納のチェックと押印をして確認をもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問は月に1回以上はあるので職員に気軽に言える雰囲気が出ており、家族から聞いたことは必ず学習会で検討し、運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職しないよう働きやすい環境づくりに努めている。止むを得ず代わる場合にはいきなり交代するのではなく、事前に利用者、家族に伝えて理解していたいから行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用時は性別や年齢で決めるのではなく、グループホームの職員としての適性を重視している。職員から研修参加希望があると、意欲を持って働けるようにできるだけ勤務日の調整をしている。また、資格取得については法人全体で勉強会を開催してバックアップをしている。その他、職員が自由に意見を言えるよう雰囲気づくりをしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	事業所の今年度の目標として「利用者の人権の尊厳」を掲げており、日々の言葉使いや、接し方を振り返り、気をつけるように指導している。また学習会でも皆で再確認をしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は自らの年間目標を立て、実践し結果評価もしている。今年度は4名が国家試験に向け頑張っており、法人内で受験対策講座を実施し、合格に向けサポートしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム開設(3年前)にあたり、同じ地域の同業者と交流を密にしていた。今年度は法人への「チャレンジシート」にも目標として地域内の同業者への訪問、ネットワークや交流を広げ取り組み、日々のサービスの質の向上を目標にあげ、達成に向けて取り組まれている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族にホーム内を十分に見学をしていただく中で利用者たちとも触れ合い、食事の希望があれば提供できる体制ができていますので一緒に食事していただいている。見学を数回重ねていただき、本人と家族の納得を得て、入居手続きをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に生活することで人生の先輩である利用者から生活の知恵(洗濯物のたたみ方等)、食事の味付け、調理方法など教えてもらったりしている。共に支えあう関係が築かれている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動から利用者の思いや望みを把握し、利用者本位の生活ができるように努めている。また家族や関係者が訪問された時、家族や関係者から利用者の思いや必要な情報等を積極的に得るようにして、それを職員全員で確認しあっている。		
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用し、きめ細かなアセスメントを行い、利用者や家族の意見等を計画に反映させるように職員全員と必要な関係者として介護計画を作成し、家族の了承を得ている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの見直しを基本としているが、状態が変化した時には全職員で計画の見直しを行い、本人や家族、必要な関係者と話し合い、状態に即した介護計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族などが宿泊を希望した場合の場所の確保、利用者が望む理美容院への送迎、かかりつけ医への同行等の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医やなじみの医師との信頼関係を尊重し、家族が同行できない場合には職員が受診介助を行っている。夜間や緊急時の受診については、ホームの連携医療機関への受診ができる体制が出来ている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期をホームで過ごしたいと望まれている利用者があり、できる限り利用者や家族の意向に添えるよう取り組むことを職員間で話しあっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員はプライバシーの確保が大切な倫理として共有しており、個人情報等の記録書類は全て職員室に保管、管理している。言葉かけ等は、気付いた時に職員間で注意しあって改善している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れはあるが、食事の内容や外出、買い物、レクリエーション等、利用者個々の要望を聞きながらでき得る限り実践している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳、下膳などを積極的に職員と一緒にいる等、利用者のできる能力や意欲を大切に支援している。職員のうち一人だけが利用者と同じテーブルで同じ食事を検食として摂食し、他の職員は近くで各自の弁当等を摂食している。	○	他の職員も利用者と同じテーブルで同じ物を摂食する事で、共通の話題や喜びが共有できるので生活の一部としての取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1人が週に3回の入浴を実施している。利用者の体調や希望に合わせてシャワー浴を行ったり、利用者のその日の気分や希望に添っての入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ごぼうの皮むきが得意で職員が教わったり、料理、雑巾がけ、洗濯、花の手入等を積極的に楽しみとしている利用者への支援を大切にしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望をききながら果物狩り、スイカ割り、七夕祭り、お花見などに出かけたり、地域での体育祭の招待を受け職員と一緒に参加したりしている。利用者個々の希望に添って買物や散歩、ドライブ、隣人宅への外出などの支援を積極的に行っている。		
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の自由な生活を尊重し、基本的には全室、玄関などの出入り口の鍵をかけていない。玄関には安全確認のためにセンサーを設置している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと年1回避難訓練を実施している。また年2～3回夜間を想定して全職員参加で避難誘導訓練をしたり、毎月全職員参加で誘導、避難経路、避難場所、地域との連携などの再確認をし、災害時対応が安全に行われるよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取や水分摂取を個々に記録し、状況を把握して一人ひとりに応じた支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは明るく、車椅子でも利用できるような広さを確保し、洗面所には一人ひとりの自分用がセットされ、使い慣れた用具が置かれている。リビングにはソファや椅子、掛け軸、置物などを置き、自宅での生活と同様の取り組みが見られる。眺めのよいウッドデッキがあり、夏の日差しには作り付けの日除けを活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、本人の馴染んだ大切な家具や寝具、壁掛けや装飾品などを持ち込み、一人ひとり個性的で居心地よく過ごせる工夫がなされている。</p>		